

湖南省文化財講座「地域の魅力再発見！まち歩き・ワークショップ」開催結果

1. ワークショップの概要

第1回は菩提寺で、菩提寺まちづくり協議会主催の歴史講座と合同開催。講座終了後にグループワークを実施し、「菩提寺らしい」文化財について意見交換を行った。

日 時：令和7年7月13日（日）午後3時30分～午後4時30分

会 場：菩提寺まちづくりセンター

参加者：一般参加者12名、湖南省商工観光労政課4名

2. 内容

①地域に伝わる文化財

伝統行事（サンヤレ祭り・花まつり） 史跡（石多宝塔や三体地藏・閻魔像）

社寺（西應寺・正念寺・八王寺神社・斎神社など）

遺跡（竜王山古墳・坂上田村麻呂関係※）

菩提寺山関連（龍王社・歴史の小路・霧降の滝など）

父の菟田麻呂、祖父の犬養の墳墓があったと伝わる。

②後世に伝えていく上での課題

・担い手不足

行事の存続、有形文化財の管理ともに問題。少子高齢化のため継いでいく者がいない。大人も祭りを知らない、意義を理解していないことも。

・物理的な管理の問題

寺社や多宝塔、石仏など有形文化財については劣化や破損のおそれ。管理に費用がかかる、後継者不在など。

③課題の解決に向けて

・資料室の活用、歴史公園作成など PR を充実させる。 県教育委員会に協力を仰ぐなど外部の力もバランスよく借りられればよい。

・記憶の風化を防ぐ（周知・教育） …予算や人手を増やして調査を行い適切な記録を残す。地域では供養祭（役員が史跡等を廻る）があり、住民への周知を続ける。小学生に地域の歴史を教える。

・若者への引継ぎのためには上の世代の意識改革も必要。菩提寺区だけの閉じた行事ではなく、どの学区区からも参加できるようにしては。

湖南省文化財講座「地域の魅力再発見！まち歩き・ワークショップ」開催結果

3. まとめ

今回の意見交換では、伝統の祭りや仏教文化に関わるものが多く挙げられた。菩提寺区はまちづくり協議会の活動や小学校での地域学習が盛んで、歴史文化を継いでいく土壌自体はあるが、それでも担い手の不足は大きな課題となっている。

行事についてはよりオープンにすることでまずは存続を図るとの意見が挙げられたほか、多宝塔や寺院などは学術的価値を正しく把握した上で内外に広く周知することが必要となる。外部団体に協力を仰ぐことも視野に入れつつ、地元と行政で連携して手を打っていきたい。



グループワーク説明



グループワーク作業

菩提寺	①②文化財列挙・ピックアップ	③課題の把握	④解決策
グループ1	龍王山古墳・竜王神社 花まつり、和田こども神輿、太鼓、愛宕祭り、 和田サンヤレ祭り 亀が淵の亀岩、坂上犬養の古墳、坂上菟田麻呂の墳墓	<ul style="list-style-type: none"> 案内板の設置 歴史の小路再整備 サンヤレ残すため子ども少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 資料室バックアップ 歴史公園作成 県教育委員会と協力 発信PRを充実 伝統と助けを求めるバランス
グループ2	龍王、山ノ神社、八王寺神社、稲荷神社、和田神社、斎神社、正念寺、菩提寺山、霧降の滝、亀ヶ淵、正福寺の祭り、サイドタウンの旧八王寺神社跡、甲賀坂、八重谷、山ノ神古墳、缶子塚、閻魔像、三体地蔵、御旅所 多宝塔 西應寺	劣化、石の摩滅、破損、盗難焼失 管理費用、後継者不在 ●記憶の風化、無関心・知らない	<ul style="list-style-type: none"> 価値の記録、適切な文化財評価…調査、学芸員を充足、予算 周知…供養祭を通して住民に周知、地域のシンボルにする 教育…小学生に教える、文化財保護の意識を育てる
グループ3	斎神社初詣・春祭・祭礼、西應寺除夜の鐘、和田神社愛宕祭り、歴史の小径石造祭り、八王寺神社 竜王社霊水供、さんやれ太鼓 花まつり、サンヤレ祭り 井上嘉吉顕彰碑、まちづくりセンター資料室	<ul style="list-style-type: none"> 他地区の人が参加できる行事がない サンヤレを知らない、花まつりを大人が理解していない 責任者になり手がいない 子どもがいない、少ない 地域の相互扶助がない 時代の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の意識改革、孫世代に引き継いでいけるようにする 昔の人の工夫をもっと伝えたい どの区の子どもも参加できる制度を作る 菩提寺区の行事を全学校区の行事に 責任分担

湖南省文化財講座「地域の魅力再発見！まち歩き・ワークショップ」開催結果

1. ワークショップの概要

第2回は石部で開催。湖南省役所西庁舎に集合し、講師の説明とともに旧東海道沿いでまち歩きを実施。その後、こころの街角サロンいしべ宿駅でグループワークを実施し、「石部らしい」文化財について意見交換を行った。

日時：令和7年7月19日（土）午前9時～正午

会場：こころの街角サロンいしべ宿駅

参加者：一般参加者7名、湖南省商工観光労政課4名

講師：八杉淳氏（草津宿街道交流館）

2. まち歩きルート

湖南省役所西庁舎 → 石部中央交差点ポケットパーク（高札場跡） → 旧淡海銀行
→ 小島本陣跡 → 田楽茶屋（休憩） → 八幡屋 → 鉤の手（一里塚跡、見附跡）
→ 吉御子神社 → こころの街角サロンいしべ宿駅

3. 内容

①地域に伝わる文化財

石部宿関係：小島本陣跡、愛宕神社、旧建築（八幡屋）、鉤の手状の地形

社寺：吉御子神社、吉姫神社、真明寺など

資料館：雨山の歴史民俗資料館で東海道や宿場関係の資料を展示・保管している。

②後世に伝えていく上での課題

- ・小島本陣跡が草だらけで荒れている。
- ・古い建造物が減ってきている。
→今も居住・利用があるのは八幡屋、旧淡海銀行など。湖南省景観計画において開発の際は古い町並みに配慮を、としているが法的な強制力まではない。
- ・資料館の利用が少ない。

③課題の解決に向けて

- ・旧建築の保存
古い建物を残したくなるような施策（所有者に補助金や感謝状のようなものを出す）
- ・教育、普及活動
石部宿について子どもだけでなく教師にも学んでもらう機会を作る。
- ・ターゲットごとに情報発信のやり方を考える。
→市外、観光客…石部の特色をまとめた地図などの資料を宿駅などに展示。地元商店と協力して特産品を作る。
地元・市内…歴史講座の開催、図書館との連携。
- ・資料館の活性化…宿駅などでの出張展示、図書館に関連図書を置くなど人目につく工夫を。

④その他意見

- ・旧淡海銀行の建物はヴォーリズ建築なのか？
→図面が確認されておらず、違う可能性が高い。しかしヴォーリズでなくとも古い建造物には変わりなく、図面などが確認できるとよい。
- ・愛宕神社が15社ある。かつて火災が多かったために愛宕信仰が根付き、現在も愛宕まつりが行われている。ひとつの地域にこれだけの数があるのは大きな特色といえる。

3. まとめ

江戸時代の宿場町として栄えた点は大きな特色で、現在でも旧東海道沿いの地形や一部建築に面影がみられる。また他の宿場町と比較しても、愛宕神社が多く祀られている点は特徴的である。

「石部地域ならではの」の要素は豊富といえるが、一方でそれらの整備・周知が行き届いていないという課題を挙げていただいた。図書館に資料館と公共施設が多い地域である点も活かし、効果的な情報発信を行う術を探っていききたい。



まち歩き風景

石部	①②文化財列挙・ピックアップ	③課題の把握	④解決策
グループ1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田楽茶屋…休息にいい、駐車場がほしい ・ 休憩スペース田楽茶屋しか知らなかった。宿駅は利用者あるのか？ ・ 小島本陣 ・ 八幡屋、かぎの手、宿場の跡を残す ・ 現在人が住んでいる場所の保存（八幡屋）、吉御子神社、ヴォーリズ建築（記念館にできないか）、雨山の資料館（目に触れやすい場所に移せないか）、文化財講座で石部の歴史を話してほしい ・ 街道筋に寺が多い、古い家屋は少ない ・ 愛宕神社多い…火災多く愛宕信仰根強い ・ 吉姫神社の御旅所 樹齢300年の巨木 ・ 服部未石亭コレクション ・ 安民米制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料館の利用客少ない、人目にふれる工夫を ・ 小島本陣跡が草だらけで荒れている ・ 古い建築が減ってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちに石部宿を学習させる ・ お金になるものを作る ・ 「ヴォーリズ建築かもしれないまんじゅう」を売り出す ・ 石部の町並みをアピールする <p>対象を「市外の周辺地域」「石部以外の市内」「石部地区内の無関心層」どこにするかで大きく違う</p>

湖南省文化財講座「地域の魅力再発見！まち歩き・ワークショップ」開催結果

1. ワークショップの概要

第3回は下田で開催。下田まちづくりセンターに集合し、社寺や商店街を回るまち歩きを実施。その後、センターに戻ってグループワークを実施し、「下田らしい」文化財について意見交換を行った。

日時：令和7年8月16日（土）午前9時～正午

会場：下田まちづくりセンター

参加者：一般参加者4名、湖南省商工観光労政課4名

2. まち歩きルート

下田まちづくりセンター → 忠魂碑・顕彰碑 → 慶圓寺^{きやうえんじ} → 日枝神社 →
→ 紺喜染織前 → えびす町商店街 → 下田まちづくりセンター

3. 内容

①地域に伝わる文化財

伝統工芸（下田焼、正藍染） 名産品（下田なす、弥平とうがらし）

慶圓寺、日枝神社 →日枝神社では毎年5月1日に祭礼（お田植踊り）

②後世に伝えていく上での課題

- ・特に伝統工芸について、後継者、担い手がない。正藍染は残念ながら廃業された。下田焼は現役だが陶房を東寺に移され、下田が発祥というアピールがほしい。
- ・外部からの移住人口が多く、地域の昔の姿を知る人が減っている。親世代が地元の歴史を知らない。ので子どもに伝えられない。
- ・まちづくりセンターの設備が古い。

③課題の解決に向けて

- ・伝統工芸の存続に地域おこし協力隊などの助力を得られないか。
- ・下田城跡などあまり知られていないものも多い。魅力を発掘、見える化して観光資源にできないか。
- ・小学校での郷土学習、副読本などの内容見直し。生徒だけでなく教員も、歴史を知る先生と若い先生で協力。
- ・小学校での歴史講座をフィールドワーク的に広げられないか。
- ・まちづくりセンターの整備。資料の整理や展示ができるようにし、「ここに来れば下田のことが大体わかる」という状態にする。
→いきなり多くの人に興味を持ってもらうのは難しい。まずはまちセンに来てもらうことを目標に、子どもが自由に使える自習室としての開放など検討しては。

④その他意見

- ・ひとつの村に寺と神社がひとつずつというのは珍しい。村全体で同じ宗派というのも、住民の一体感、団結力の一因か。
- ・お田植踊りは昔は氏子の家の子しか出られなかったが、現在は特に制限なく、希望があれば出られる。衣装がかわいらしく思い出にもなり、親御さんにも好評。
- ・小学生向けの出前講座は実施しているが、学校から個人宛に依頼しており、まちづくり協議会の方で講座の内容などは共有されていないとのこと。

3. まとめ

室町時代に開拓され、600年以上の歴史を持つ下田地域。商工業が盛んで様々な店が建ち並び、村の中だけでも生活が完結できたという。古代の集落や古墳といった遺跡はないが、市内の他地域とは味わいの異なる歴史風土を有する。

こちらでも後継者・担い手の問題はやはり挙がった。お田植踊りは門戸を広げて行事を存続されているが、伝統工芸の技術が途絶えることは深刻。また、地域の歴史を知る人が少ないため教育・普及活動に力を入れるべき、その拠点としてまちづくりセンターを活用したいが設備が不十分との声もあり、施設の整備も課題となる。



まち歩き



ふりかえり

下田	①②文化財列挙・ピックアップ	③課題の把握	④解決策
グループ1	<ul style="list-style-type: none"> ・他県から甲西町に引っ越してすぐ有名だと思ったのは①下田焼 ②藍染 ③昔はJRバスが下田～三雲を走っていたらしい ④下田なすとやまじょう ⑤後になって知ったのは弥平とうがらし ・今日歩いて興味を持ったのが日枝神社。下田村全体で神社が一つだけというのが珍しい。5.1お田植祭りは維持してほしい。 ・商人の町で、ほとんどの物が下田でそろそろ良い町であった。今は… ・一寺一社で宗派もほぼ同じ、団結力のある地域。 ・商店街の道が3通りある ・墓地が高所にあり墓参りが大変。 ・下田小で地域の歴史を教える出前講座をやっている（前センター長が個人的に依頼を受けて行っているとのこと） ・お田植踊りはかつては氏子の子だけであったが、今は特に制限はなく、小学校高学年女子の希望者は参加可能。新興住宅の家庭からの参加も多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・藍染を残す手立てはないか ・「観光マップ」観光地があまり描かれていない、商工マップでしかない（道中の看板を見て） ・外部から移り住んできた人が多い→昔の下田を知る人が減ってきている ・伝統工芸の存続にせよ地域の歴史を伝えるにせよ、若手を入れなければならない。 ・まちセンが古く資料の展示などが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・下田の魅力をもっと発掘して見える化することによって観光の資源にできないか？下田城址、十二坊 ・小学校でもっと郷土の歴史を教えてほしい。現在の副読本の内容が魅力ある内容か 古い歴史を知る教員と若い教員が協力して見直してほしい。 ・小学生向けの講座だけでなくフィールドワーク的に広げられないか ・まちセンを地域の中心に、ここに来たら下田のことがわかるという状態にする。子どもの集会に使ってもらう

湖南省文化財講座「地域の魅力再発見！まち歩き・ワークショップ」開催結果

1. ワークショップの概要

第4回は三雲で開催。夏見公民館に集合し、旧東海道周辺を回るまち歩きを実施。その後、公民館に戻ってグループワークを実施し、「三雲らしい」文化財について意見交換を行った。

日 時：令和7年9月7日（日）午前9時～正午

会 場：夏見公民館

参加者：一般参加者13名、湖南省商工観光労政課5名

2. まち歩きルート

夏見公民館 → 夏見神社 → 夏見城跡 → 観音寺 → 吉永公民館
→ 大沙川隧道、弘法杉 → 西往寺 → 夏見の里（立場跡） → 夏見公民館

3. 内容

①地域に伝わる文化財

社寺：夏見神社、観音寺、西往寺 城跡：三雲城址、夏見城跡

隧道（マンボ）：大沙川、由良谷川 夏見の立場 弘法杉 天保義民の碑 針文五郎の碑

②後世に伝えていく上での課題

- ・素晴らしい文化財が多くあるがPRが十分でない。
- ・子どもが歴史に触れる機会が少ない。
- ・隧道は地元住民から撤去要望が出ている。

③課題の解決に向けて

- ・イベント開催によるPR…参加型のイベントで地域の文化財に触れてもらう
→今回のまち歩きはタイトル等がやや堅苦しい印象。気軽に参加できるように、わかりやすいキャッチコピーなどがあるとよい。 例：夏見城跡で毛抜きが出土…「昔の人も身だしなみに気を使っていた!？」
- ・子どもに興味を持ってもらえれば家族や友人を巻き込んで参加者を集めやすくなる。
- ・夏まつりなど人が多いところでPR。
- ・観光協会のJRハイキング…参加者多く、県外からも来てもらえる。行政も協力して盛り上げては。
- ・子どもが歴史に触れる機会を作る…菩提寺では地域学習が盛んで、児童が自主学習、発表するプログラムがある。行政も協力して学校教育に組み込めないか。

湖南省文化財講座「地域の魅力再発見！まち歩き・ワークショップ」開催結果

3. まとめ

社寺や中世城郭跡、江戸時代の街道文化を示す立場跡や街並みなど、魅力的な文化財が多くある。知らなかったものもあり驚いた、一方でPRが十分でないのではとのご意見をいただいた。まちづくり協議会や観光協会のハイキングイベントを支援ないし協働する、地域の子どもに歴史学習の機会を設けるなどが施策の第一歩として考えられる。地域の魅力を多くの人に知ってもらうことは文化財の保護・活用両面につながることであり、特に将来の担い手にもなりうる子ども世代へのアピールは重要。内外への魅力発信を積極的に行いたい。



まち歩き風景



グループワーク

三雲	①②文化財列挙・ピックアップ	③課題の把握	④解決策
グループ 1	<p>・夏見立場 ・立場という今でいう休憩所・喫茶店？が夏見にあったこと。ところが名物であったこと。</p> <p>・観音寺。里山の近くに位置 ・三雲城 ・大沙川隧道（旧道JR）大沙川隧道と由良谷川隧道は歴史的建造物なので残してほしい。</p> <p>・トンネルの上に弘法大師の像があることにびっくりした。</p> <p>・夏見神社の石橋 ロケ地候補になっている。</p> <p>・夏見城跡を初めて知りました。毛抜きが発掘されたことを知り、当時の身分の話が面白かった</p> <p>・毛抜きが発掘されていること。それで身だしなみを整えていたこと。</p> <p>・本日のところでは①観音寺②夏見神社③弘法杉 それ以外のところでは①三雲城②天保義民の碑③針の文五郎顕彰碑④八丈岩</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マジメ過ぎる→もっと気軽に ・キャッチコピーをわかりやすく →毛抜きとか 昔の人でも同じように気にしていた ・違うイベント（夏祭り）とかでPR ・落合川の東（柑子袋）は豊臣、西（石部）は徳川 ・マンガとかにして知ってもらう ・対象を子どもに→親や子ども、友だち 	
グループ 2	<p>寺・神社 ・夏見神社、渡り橋 ・（他学区からの参加で三雲を歩いたのは初めて）夏見神社ではちょうど祭りの準備の最中、地元で大事にされているのがよくわかるし大事。→しかし、祭りの準備で集まっている方々が高齢者ばかりなのが気になる。</p> <p>・西往寺 六地藏さんが一体でびっくりしました。 ・観音寺立派でした。</p> <p>隧道 ・由良谷川・大沙川マンボ 大沙川隧道ができたわけを知った</p> <p>・歴史的にも価値のある建造物で後世に残してほしい。</p> <p>・草津線のトンネルも誇るべき。遺産なのでもっとアピールしてほしい。鉄道マニアでは結構有名です。</p> <p>夏見城跡 ・夏見城跡 初めて見ました。小学校の横なのに！</p> <p>・他の針城、丸岡城など旧東海道筋に多くの城跡があるのは貴重。三雲学区まち協で立派な「いにしへの古城」パンフレットを作っているのはすごい。</p> <p>全体 ・（町歩き）夏見区の方が少なかったのもっと参加を。一か所をもっとじっくり見学したい。 ・狭い地域に多くの古い建造物がありビックリです</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの郷土学習の機会減少。 寺や神社に行かない ・隧道は地元から撤去要望が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが歴史に触れる機会を。学校教育、行政も協力して ・旧東海道を知るコース JRハイキングを観光協会と協働する ・来年あたり大河の影響で城ブームが来るかもしれない。三雲城などアピール